協働提案事業

障害者・高齢者の共生社会に向けて

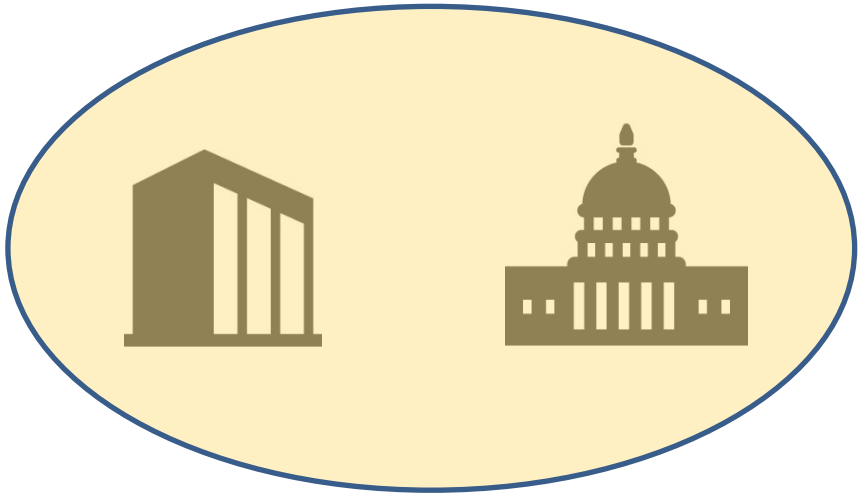
～障害分野と高齢分野の連携推進～

団体名　一般社団法人Ｇeny

所管課　障害者施策課、障害者生活支援課、介護保険課

協働提案事業とは…

▶杉並区と地域活動団体が、互いの立場を尊重して役割を分担し、協働で地域の課題解決に取り組む事業



今回の事業で支援者に期待できる効果

両分野の理解のきっかけ作り

↓

連携が進むことによって

↓

質の高い相談や支援が可能

↓

今回の事業で利用者に期待できる効果

障害者・高齢者ともに

よりニーズに合ったサービスの

選択肢を広げることが可能

↓

その人らしく暮らすことができる

高齢分野の課題

▶障害者に関する知識や
ニーズが把みきれない

ケアマネジャー・ケア24として

(高齢)障害者が何を求め、どのようなことに困っているのかなど、**障害者についての知識や障害特性の理解が不十分**なことはありませんか?

高齢分野の課題

▶障害施策に
関する知識が不十分

ケアマネジャー・ケア24として

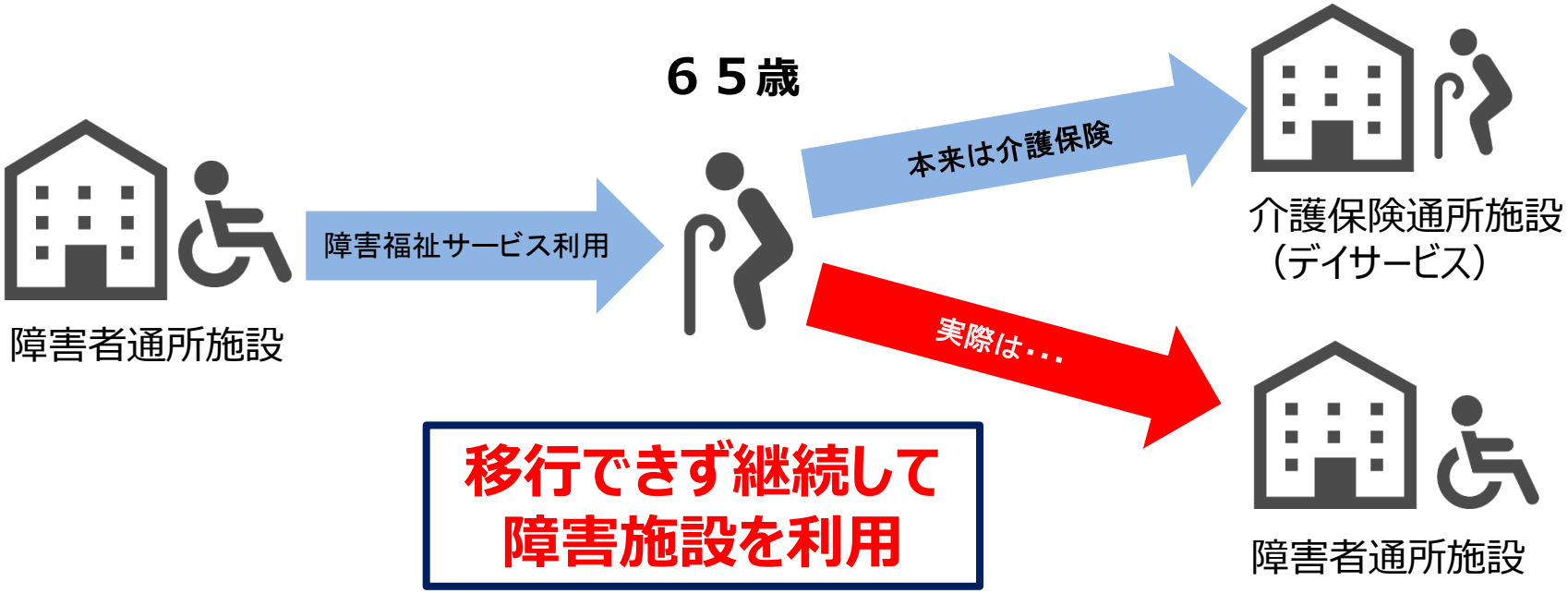
高齢者が障害サービスを必要とする場合もあるが、**障害施策についての知識が不十分で利用者への説明が難しい**ことはありませんか?

障害・高齢分野の課題

▶６５歳の介護保険への移行の問題

①65歳を迎えると、原則、介護保険サービスに移行となるが、長年通所してきた障害者の通所施設（生活介護等）から、**介護保険サービスの通所介護（デイサービス）にうまく移行できないケースが多い**

理由のひとつとして障害者や障害支援者が**介護保険がわからない**等がある。



障害・高齢分野の課題

▶６５歳の介護保険への移行の問題

杉並区地域自立支援協議会が実施した**ケア24職員に向けた**
【障害福祉サービスから介護保険サービスの移行期におけるアンケート】の結果より抜粋

移行期に困ったこと

➡支援関係者の情報が少ない。

制度内容の違いがあり、理解が得られづらく説明が大変。
移行直前に相談があり移行がスムーズにできない。
関係機関との連携がうまくいかなかった。 など

移行期にどのような情報があると良いか
➡障害当事者の成育歴・障害特性・障害状況・趣味・嗜好等。

障害・高齢分野の課題

▶６５歳の介護保険への移行の問題

杉並区地域自立支援協議会が実施したケア24職員に向けた
【障害福祉サービスから介護保険サービスの移行期におけるアンケート】の結果より抜粋

移行期の支援をスムーズに行うために必要と考えること

①制度理解と説明

早めに連絡(情報)をもらってサービスの**調整を開始**したい。
障害福祉サービスの内容の理解(をしたい)
(障害当事者へ)介護保険制度の説明。
障害当事者の移行への理解(をすすめる)
障害分野の支援者への(介護保険制度の)概略説明。

②連携と情報共有

情報共有がスムーズにできるよう、連携時の**情報提供方法の確認**。
相談支援専門員や支援者との連携・情報共有や**役割分担**。
定期的に**顔の見える関係づくり**のための研修や交流会。

障害・高齢分野の課題

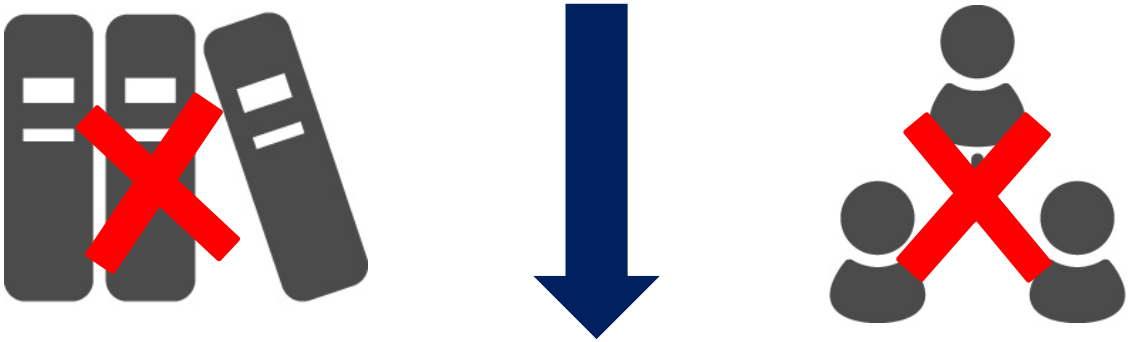
ケア24が困ってるということは・・・

ケアマネジャーも困ってる!

そしてこれは**移行期のみの課題ではない!!**

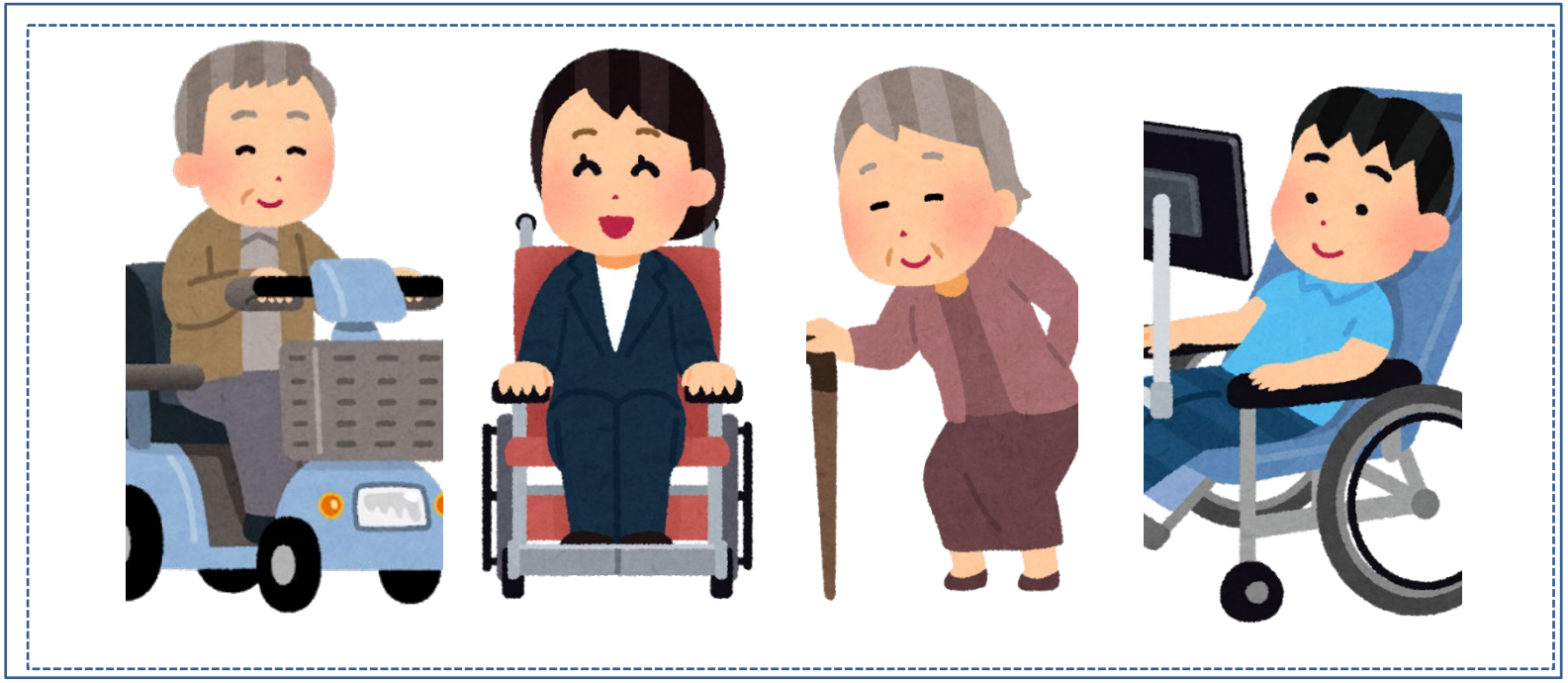
障害・高齢分野の課題

▶両分野で**相互理解や連携・情報が不足**している



利用者**ニーズに**充分に**応えきれていない**

障害・高齢分野の課題



障害分野と高齢分野の連携が必要

事業内容

▶セミナー開催

今日はココ

①ケアマネジャー・ケア24向け

②デイサービス事業所向け （11/13）

③障害者・家族・支援者向け（10/28）

➡高齢施策・デイサービス等の周知
障害者調査結果・共生型サービス利用事業所報告

▶共生型サービスの説明及び事業所開設の支援

事業内容

ケアマネジャー・ケア24向けセミナー

本日の目標

1) 障害者・家族の実態・ニーズの概要がわかる
2) 障害制度や障害者施策の理解が進む
3) 実際行っている共生型サービスの利用状況がわかる
4) 65歳の介護保険移行に関する不安が減る

事業内容

1) 障害者・家族の実態・ニーズの概要がわかる

▶障害者・家族への実態ニーズ調査

20歳以上　約1500人対象

障害福祉サービスに通所している障害者とその家族　及び　通所を検討したが現在通所できていない障害者とその家族に対して実施(2020.6月)

▶共生型(通所)サービスの後追い調査

・利用者・事業所対象(利用状況の把握)

事業内容　(1)障害者・家族へのニーズ調査結果

障害者本人の声

(生活介護を利用されているご本人の希望)

〇事業所までの送迎を改善してほしい

・送迎ポイントまで遠いし、送迎車に乗っている時間が1時間半と長すぎる（30～49歳）
・現在は親が送迎していて、いつこの状態が崩壊するかわからない（18～29歳）

〇プログラムを充実してほしい

・入浴ケア、機能訓練はない。レクリエーションは充実していない。
　選べるほど選択肢はない。（30～49歳）
・入浴設備がない(65歳以上）

〇施設設備を充実してほしい

・建物が古くてトイレが使いづらい（30～49歳）
・移動（スペース）に余裕がないので、落ち着きがない（30～49歳）
・利用者が増えたので少し狭く感じる（18～29歳）

障害者を介護するご家族の声

（生活介護を利用されている方のご家族の介護負担）

○介助が大変

・二人で共に入浴、本人を先に洗う（自分では洗い残し有）ので、私自身ゆっくり入浴できない。（65歳以上74歳以下の介護者、少し介護に支障がでてきた健康状態）

・重い外出用車イスを押して移動しなければならない。（40歳以上65歳以下の介護者、あまり介護に支障がない健康状態）

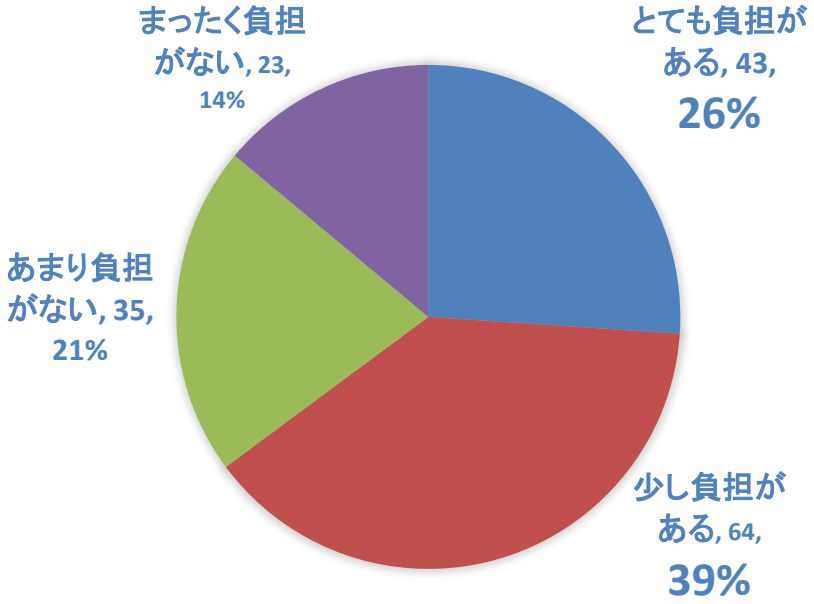
○リハビリが必要

・「機能訓練をうけたい。（現状うけていない）」（40歳以上65歳以下の介護者、少し介護に支障がでてきた健康状態）

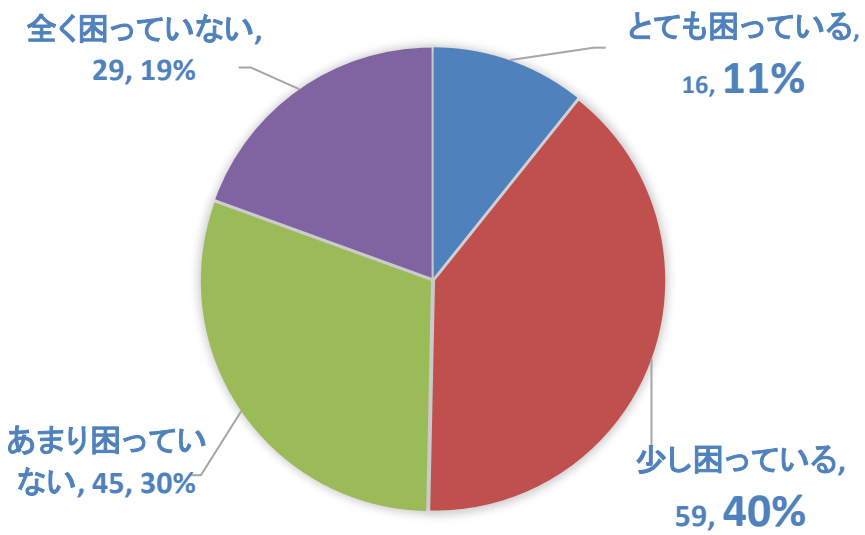
○自身の健康・体力に不安

・「体力的に年々負担感が増してゆく感じです。当事者と介護者の体格がほぼ同じなので」（40歳以上65歳以下の介護者、少し介護に支障がでてきた健康状態）

事業内容　(1)障害者・家族へのニーズ調査結果



入浴についての介護負担感（家族）



通所サービスを利用していない時間において、
機能訓練についての困り具合

障害分野の課題

▶**通所事業所数が少なく**定員枠が足りてない状況…

・利用者の循環が少ない

⬇

・新しい利用者が入りにくい　※現在、待機している人もいる。

⬇

・生活介護事業所を新設するには、お金や人材、時間がかかる

今回の提案の一つ　共生型サービス

「地域共生社会」の実現に向けて

地域の実情に応じて**制度の縦割りを超えて柔軟に**必要な**支援を確保**することが容易になるよう事業・報酬の体系を見直す政策が提案された。

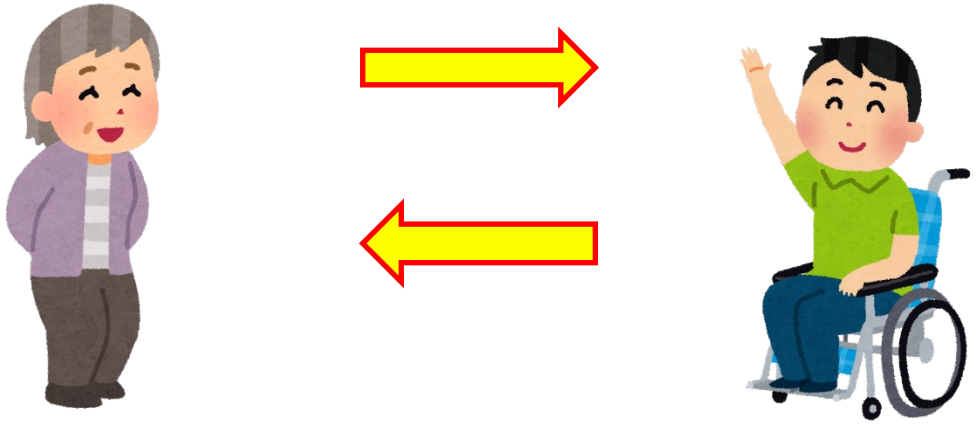
平成30年度より介護保険制度及び障害福祉制度に

「共生型サービス」を創設

期待できる効果

▶共生型（通所）サービスの指定事業所が増える

➡通所先等サービスの**選択肢が増える**
➡**高齢者と障害者の交流**がうまれる
➡65歳の**介護保険への移行がスムーズ**になる



高齢分野の課題

▶通所介護事業所（デイサービス）が多く
内容の整理がしきれていない

ケアマネジャー・ケア24として

・デイサービスの数は多い**（約150か所）**が、事業所の詳細や、特色などを**比較できる資料が少なく**ニーズに適した事業所の**情報提供がしづらい**。

事業内容

今年度末の予定

▶デイサービス事業所への
事業内容調査
区内事業所 約１５０か所 (2020年度中に実施予定)

デイサービス情報を**整理した資料**を作成

5)**各デイサービスの特色や内容が分かりやすく**なり
適切な情報が提供しやすくなる

事業内容

来年度の予定

▶フォーラムの開催

6）高齢者や障害者が暮らしやすい杉並となるため、
当事者・ケアマネジャーを含む支援者・行政職員等と
ともに**地域共生社会**について検討します　(2021年度開催予定)